

JR東労組盛岡

No.95
2021年6月4日
東日本旅客鉄道
労働組合
盛岡地方本部

〒020-0045
盛岡市盛岡駅西通二丁目16番31号
発行人 佐々木克之
編集人 情宣部
NTT 019-623-1011 FAX 019-624-0157
JR 033-2238・2239 FAX 033-2230

2021年度夏季手当に関する申し入れ 第2回団体交渉③

組合 コロナ特別手当は必要だ！

- ・コロナウイルスが世界的流行後、企業立病院の役割と地域医療を両立させてきた。
- ・大阪への看護師の派遣も担っている。
- ・車両の消毒、私生活の自粛、緊急事態宣言による切符の払い戻し作業の増加なども取り組んだ。
- ・安全・安心が浸透して、昨年と比較してもお客さまの利用が増加している。黒字予測は、努力した結果である。
- ・業務上で感染するリスクが高い。ワクチン接種も公共性の高い所から検討されている。現状では、感染症の高いリスクに対応する「防疫作業手当」のようなものがない。そうであるから要求している。この間、満足な回答がない。

会社

- ・医療職場を含めて社員のみなさんが社会的使命を果たすべく尽力していただいていることに感謝。
- ・社員個々におかれた状況は様々である。待機や在宅勤務など、賃金を支給する働き方も実行してきた。
- ・期末手当にあたっては、足元の状況を見て、危機を乗り越えた上で総合的に判断したい。

組合 グループ全体へのびゅう商品券5万円支給はモチベーション向上に必要だ！

- ・変革のスピードアップに対して、グループ会社の一人ひとりが同じ気持ちで取り組んでいる。
- ・本体でコストダウンすると、グループ会社は受託料の減少だ。本体の都合が影響を与えている。
- ・グループ会社の労働条件は個別だというのが、JR東日本グループにいてよかったと思えることをすべきだ。
- ・東北DCなど懸念されるが、行くための元手がないというのも現実だ。

会社

- ・グループ会社の議論は個々となる。JR東日本の期末手当の議論なので馴染まない。
- ・要求は受け止める。びゅう商品券という要素については、総合的に慎重に判断したい。
- ・将来の発展のために、鉄道・生活サービス・IT Suicaを分担している構造を見直すことは欠かせない。

組合 雇用確保と生活に直結する賃金は両輪だ！

- ・負の要素だけではなく黒字化を見通した要素に重きを置いて判断するべきである。
- ・組合員と家族の生活がかかっている。会社の回答からは、生活実感に対して重きを置いて触れられていないことに危機感を覚えた。生活に必要な具体額なども強く主張した。
- ・生活するために働いている。組合員、社員の生活なくして企業の持続的成長はない。
- ・昨年同時期よりも増加傾向であり、通期は黒字見通しであることを踏まえれば、昨年水準以上の満額回答すべき。
- ・増収増益決算でさえ、人件費増や突出感など様々な問題意識のもと支給が抑えられた。
- ・JRグループで唯一定期昇給カット回答を示した。多大なる影響を与え、モチベーションも低下。
- ・社長は賞与や定昇の減額は、雇用の安定を優先するという理解してほしいと述べているが、JR東労組として雇用のみならず、生活に直結する賃金は両輪であり、雇用が守られるから仕方ないとはならない。
- ・JR 東日本グループで働く、組合員、社員とその家族を大切にする企業であるとの姿勢を示す意味でも、要求全項目の満額回答を再度求める。

会社

- ・会社の将来に向けた発展の取り組み、労働実態、生活実態を議論した。
- ・経営状態など、一概に昨年と比較できるものではない。経営状況なども全て動いている。
- ・全てが今までにない中での重要な夏季手当であり、総合的に慎重に判断する。

会社は生活実感に対して重きを置いた判断をすべきだ！！

赤字・コロナ禍においても、組合員と家族の生活を守り、モチベーションを向上させるための切実な要求に対する満額回答を組合員一人ひとりの力を結集させて勝ち取ろう！